



第125回日本皮膚科学会総会
ランチョンセミナー36

赤みを制する皮膚科学
酒皸の病態理解から
治療力を高める

6 / 14 [SUN]
2026
12:30 ▶ 13:30

会場 第3会場 国立京都国際会館
2階 Room A・ライブ配信

座長 須賀 康 先生 順天堂大学医学部附属浦安病院
皮膚科 教授

Title 演題

1 再考 酒皸の診療

演者 上出 良一 先生 ひふのクリニック人形町
院長

2 実臨床における酒皸治療戦略
デバイス治療と
アゼライン酸外用の活用

演者 山本 晴代 先生 近畿大学病院皮膚科
美容皮膚科レーザーチームリーダー

*弁当券・整理券制

[共催] 第125回日本皮膚科学会総会 / グラファラボラトリーズ株式会社

GRAFA
LABORATORIES

Title 演題

1 再考 酒皸の診療

上出 良一 先生 ひふのクリニック人形町 院長

酒皸は静止画の「赤い顔」ではなく、惹起刺激で潮紅(フラッシング)を来たす動画としての「赤らむ顔」である。その本態はTRPチャンネルを介した神経血管調節不全される。治療選択の考え方は従来のサブタイプからフェノタイプ重視へ移行しつつある。

一方で、不適切なステロイドなどの使用や過剰保湿による医原性酒皸も少なくない。治療の第一歩は惹起刺激を回避し過剰な保湿を避ける「引き算」のマネジメントにある。ダウンタイムを伴うが「肌断食」をやらざるを得ない事例もある。アゼライン酸配合のグラファ スキンケアエマルジョン AZは潮紅のカモフラージュで羞恥心軽減の点でも有用である。酒皸診療のパラダイムシフトについて述べる。

2 実臨床における酒皸治療戦略 デバイス治療とアゼライン酸外用の活用

山本 晴代 先生 近畿大学病院皮膚科 美容皮膚科レーザーチームリーダー

酒皸は紫外線や温度変化、ストレスなどの増悪因子が複雑に関与して発症すると考えられており、治療の基本は増悪因子の回避と適切なスキンケア指導である。丘疹膿疱型には0.75%メトニダゾール外用薬が推奨され、紅斑毛細血管拡張型にはレーザーやIPLが選択肢となるが治療法は限られる。アゼライン酸外用は炎症性病変に対する治療選択肢の一つであり、維持療法としての意義もある。

本講演ではデバイス治療やアゼライン酸外用の位置づけに加え、当院でのグラファ スキンケアエマルジョン AZの使用症例を通じ、その活用方法や赤みをカバーすることによるQOL改善効果についても報告する。